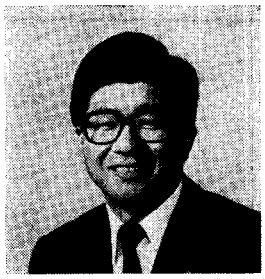
世界の交差点をめざして

—総合的な地域産業政策の視角—



北海道知事　**横路　孝弘**

1. 「エアカーゴ」の旅

10日間のアメリカ訪問の旅が終ろうとしていた．久しぶりの北海道は，緑がいまを盛りと萌えて眼下に広がっている．この同じ風景を沢山の外国からのお客さんに1日も早くお見せしたい……私は心から思ったものである．

新千歳空港の国際エアカーゴ基地構想．それは，北海道を21世紀に向かって世界に発信するために，私どもがいま最も力を入れて取り組んでいるプロジェクトである．

私はこの構想を実現するため，6月中旬からアメリカを訪れ，政府や航空会社に説明して回ったが，どこでも好意的に迎えられ，理解を深めてもらうことができたと思っている．なかでも，エメリー・ワールドワイド社とフライング・タイガー社の2社から乗り入れの表明があったことは，思いがけない成果であった．航空貨物会社だけでなく，旅客会社も関心を示し，エアカーゴ基地構想は本格的に第1歩を踏み出したといってよいであろう．

2. ヒト・モノ・カネ・情報の交差点

明治の開拓以来，北海道の経済や生活を支えてきた基幹産業が大揺れに揺れているが，それは同時に，長い間の植民地的経済構造からの脱却を促す激震でもあると受けとめている．

前川リポートをまつまでもなく，私どもは国際化時代の下で，地域の経済自立をどう図っていくかを道政の中心課題にすえて，新しい産業経済のあり方を追求してきた．それは，情報化や技術革新，あるいは都市化といった時代の大きな潮流を国際化と併せ呑むことによって，産業経済を活性化し，一層厚みを加えようという作戦である．

産業や経済が活性化する状況とは，ヒト，モノ，カネ，そして情報などが活発に行き交う状況のことである．したがって，私どもの経済自立化戦略は，国際化や情報化，都市化，技術革新といった時代潮流をわがものとして，北海道をこれらの資源が行き交う「世界の交差点」にすることであるといい換えてもよい．

私がI期4年間で力を入れた1村1品運動や産学官の交流，あるいは異業種間交流などは，このような交差点づくりへの第1歩であった．そして道民の反応は私が予想した以上に素早かった．

「もっと郷土を見直そう」を合言葉に，若者が中心となった新しい動きが道内のいたるところに芽を出し，育ちはじめている．新技術の導入に取り組む中小企業もふえてきた．

これらの多様な体験を道民共有の財産として育てあげ，産業経済発展への道を切り開くエネルギーとしていく．これが私に与えられた大きな任務である．

3. トレンドから未来を視る

まず，国際化が進展するなかで，多くの国々との地域レベル，民衆レベルでの交流を深めながら，国際社会で価値をもつ北海道を創りあげることである．

新千歳空港の国際エアカーゴ基地化はそのための拠点づくりに他ならない．ここを北の玄関口として，欧米と中国，東南アジアを結ぼうという夢が，初めに述べたように，いま現実のものになろ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

うとしている．

情報化の波も未来を開くエネルギーをもっている．ただ，これを産業や生活を充実するために活用するには，地域や生活者の側に情報の受信や発信を可能にするポテンシャルをどう創りあげるかという大きな課題がある．たとえば，地方の中核都市に情報拠点を整えて産業経済の基盤を固める一方，医療や行政サービス情報などの提供を通して生活現場における情報化のメリットやデメリットを体験するなど，今後の重要な課題となるであろう．

ひとは独自の生活スタイルを得たとき，生活に安心感を，地域に帰属意識をもつ．

北海道らしいライフスタイルの創造がいま問われているのである．そのためには，単に都市文化に対するアンチテーゼとしての地域文化ではない，個性的な生活スタイルを開発しなければならない．そして，この視点は過疎問題に対する有効な切り口を与えるものではないかと考えている．

ハイテク，バイテク，そして新素材の開発と，近代文明は更なる技術革命を胎動させている．最近は新超電導材料がフィーバーの状況にあるという．これが実用化されると，送電ロスや高効率エネルギー備蓄に新しい可能性が生まれ，たとえばリニアモーターカーなどの実現がさらに近づくという．私も大いに注目しているところである．

北海道は何といっても，バイテクの蓄積で優れているから，研究開発基盤を一層充実することによって人材を育成し，産業の体質を強め，この分野の先導者たらんと努めているところである．

4. 広く多角的に現在を視る

ヒト，モノ，カネ，情報が行き交うなかから，具体的に新産業の創出や企業おこしを進めていくためには，産業分野のみを見ているのでは不十分である．文化，教育，生活環境といった分野をも視野に入れて，産業との結びつきに目を向けていく，このことがきわめて重要である．最近は道内でも，さまざまな地域開発プロジェクトが提案されているが，それらのコンセプトをみると，むしろ文化や生活環境，自然など非産業分野が主役となっているものに魅力的なものが多い．

いずれのプロジェクトも新しい雇用の場をつくろうとしていることを併せ考えると，これらは産業と雇用，文化，教育，生活環境などとが結びついた，総合的な産業政策といえる面をもっているのである．地方自治体はこれまで総合的な産業政策を持ち得なかったが，現下の「地域プロジェクト」時代において，否応なく総合的産業政策を求められているのである．しかもそれは，地域発展への実効性ある解答と処方箋を描く努力を伴っていなければならないのである．

私は，新しいソフトな資源として技術，知識，あるいは人と人とのネットワークを育てること，多様な産業分野の連関性を重視した産業の複合化を進めること，経済のソフト化，サービス化に対応した新しい事業や企業を掘りおこすこと，などに力を入れたいと考えている．

5. 北海道発，21世紀行き

企業の世界には国境がなくなったといわれる．産業の空洞化を心配する議論もある．

確かに，国際社会にしっかりと組み込まれたわが国の経済，そして政治さえも大きな転換点を迎えていると思われる．私は，そこに地方が果たすべき役割をみるのである．特に，東西の接点にある北海道は地理的条件を政治，経済，文化のあらゆる面で生かし，「世界に開かれた地域社会」に発展していく可能性を最も強くもっている地域である．

21世紀の日本は，北から——．

新千歳空港の国際エアカーゴ基地構想は，わが国の次代を切り開くプロジェクトでもあると確信している．地域がズームの目とワイドの目をもった処方箋を完成させたとき，わが国は間違いなく新しい時代に第1歩をしるすことになるだろう．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．